

外見の美しさと内面の美しさ

— 外見／内面の重視と美しさの捉え方の特徴 —

An Analysis of Attractiveness with Outward Appearance and Inner Attitudes

Definitions of Beauty: A Comparison between Two Types of Values

山田 雅子

YAMADA Masako

A Japanese adjective “*utsukushii*” relates both sides of human attractiveness; outward appearance and inner attitude. We had a questionnaire investigation targeted at Japanese female students, and the result showed that about 60% of them thought inner attitude more important when they use the word to describe someone (Yamada, 2012). It meant simultaneously that the rest 40% set higher value on appearance, and then there were two types of idea for the epithet.

We examined the relationship between such types of view for the word “*utsukushii*” and definition of external or inner attractiveness with data from the same subjects. One of the main findings of the study was that those who attached more importance to inner attitude often mentioned things related consciousness of other’s existence as both external and inner attractiveness; facial expression as outward attractiveness, and thoughtfulness for others as inner attractiveness. They more valued propriety and consideration based on Japanese traditional collectivism.

1. 緒言

「美しい」という言葉は、その対象が持つ美を讃える語であると同時に、その対象の社会的な好ましさを意味する¹⁾。「美しい空だ」と表現すれば、空の色や雲の様子などによって好まし

い感情が喚起されたことを伝えることになり、「美しい行いだ」と表現すれば、その行動の社会的価値を認め、立派であると褒め称えることになる。良い評価を伝える言葉であることには違いないが、用いる対象によって、その背後で参照する価値観が変わってくるとも言える。すなわち、個人的な美的価値観か、社会的価値観か、ということである。

前報においては、「美人」と「美しい」という二つの語に焦点を絞り、それぞれが持つ語感の違いに注目した。人に対して用いられる場合、前者については外見的要素が重視されることが明らかとなったが、後者は内面重視が6割強、残る4割弱は外見重視という意見の分かれる結果であった²⁾。当該傾向は、5年に亘る調査のいずれにおいても安定的に見られた。まさに、「美しい」という語が持つ前述の二つの側面を如実に表した結果とも言える。

そこで本研究においては、外見の美しさと内面の美しさが日本人若年女性たちによってどのように捉えられているかを詳述し、「美しい」という語に対する反応によって、美しさの捉え方に違いが見られるのか否かを確認することを目的とする。

2. 方法

2.1 対象者

美や美しさをテーマとして扱う「ビューティーサイエンス」を受講する関東在住の日本人女子短期大学生563名（1、2年生混合）を対象とした。各年度の回答者数は、順に181名（2008年度）、83名（2009年度）、114名（2010年度）、74名（2011年度）、111名（2012年度）である。尚、本報告は、前報（山田, 2012）と同一のデータか同一時に採取したデータに基づくものである²⁾。

2.2 調査時期

2008年度及び2011年度は4月、2012年度は9月に行った。何れも初回授業にて回答を求め、美や美しさについて学ぶ前の考えを分析対象とした。

2.3 調査内容

以下の内容について、自由記述形式或いは選択形式にて回答を求めた（回答時間に制限は設けなかった）。本稿では、既述の目的に合わせ、質問4から質問7の4項目のみを分析対象とする。

- ①美人とはどのような人のことを指しますか？自分なりの考えを書いてください。（自由回答形式・複数回答可）
- ②あなたが美人だと思う有名人を一人挙げてください。（自由回答形式）
- ③現在、あなたが目指している（お手本としている）有名人を1人挙げてください。（自由回答形式）
- ④あなたがある人を「美人」と言う場合、外見と内面のどちらを重視しますか？（選択形式／外見・内面）
- ⑤あなたがある人を「美しい」と言う場合、外見と内面のどちらを重視しますか？（選択形式／外見・内面）
- ⑥外見が美しいということはどのようなことでしょうか。自分なりの考えを答えてください。（自由回答形式・複数回答可）
- ⑦内面が美しいということはどのようなことでしょうか。自分なりの考えを答えてください。（自由回答形式・複数回答可）

3. 結果および考察

3.1 外見の美しさと内面の美しさ

外見が美しいとはどのようなことなのか（質問6）、内面が美しいとはどのようなことなのか（質問7）、との問いに対して回答された内容を分類し、集計を行った。Table 1-1には外見の美しさに対する回答、Table 1-2には内面の美しさに対する回答について、分類と頻度、割合（全対象数に対する回答割合）を示した。

外見の美しさとしては顔に関する回答が最も多く、対象者の半数以上が挙げた。但し、当該項目の中には目や鼻といった顔のパーツも含まれている。「目が大きい」、「目が二重」等、目に関する記述は36件（対象者全体の6.39%）、「鼻が高い」、「鼻筋が通っている」等、鼻に関する回答は25件（同4.44%）、「小顔」、「顔が小さい」等、顔の大きさに関する回答が21件（同3.73%）、「素顔がきれい」、「化粧をしなくてもきれい」等、素顔の美しさに関する記述が12件（同2.13%）であった。他、「顔がきれい」、「顔が整っている」等の顔全体に関わる回答は219件（同38.90%）であり、山田（2009）と同様に、分析的な回答よりも包括的な回答が多数を占めた³⁾。

顔に続いて多く挙げられたのは身体に関する内容であった。当該分類も更に詳細に分けること

ができる。「細い」、「痩せている」等、身体の細さに関する回答が38件（対象者全体の6.75%）、
 「背が高い」、「長身」等の背の高さに関する回答が30件（同5.33%）、「足が長い」、「足が長く
 て細い」等、足に関する記述が17件（同3.02%）、「手足が長い」、「手足が細い」等、手足に関
 する回答が9件（同1.60%）、残る216件（同38.37%）は「スタイルが良い」、「身体のバランス
 がとれている」等、身体全体に関わるものであった。よって、顔や身体の一部に関する記述を
 除いても、最多回答は顔全体に関するものであり（同38.90%）、次いで身体全体に関するもの（同
 38.37%）であったと言える。

Table 1-1 外見が美しいとは（全体）

分類	回答例	度数	割合
顔（目、鼻含む）	（顔が整っている、顔のバランスがとれている、顔が小さい、素顔でもきれい、目が大きい、鼻が高い等）	313	55.60%
身体（手、足含む）	（スタイルが良い、背が高い、手足が長い、ウエストが細い、痩せている、筋肉がある、モデル体型等）	310	55.06%
全体的な印象	（清潔感がある、清楚、健康的、品がある、落ち着いている等）	143	25.40%
肌	（肌がきれい、肌が白い、肌荒れていない、毛穴が見えない等）	103	18.29%
化粧	（化粧が上手、自分に合った化粧をしている、化粧がナチュラル等）	85	15.10%
立ち居振る舞い	（立ち居振る舞いがきれい、姿勢が良い、歩き方がきれい等）	81	14.39%
全体	（見た目がきれい、容姿端麗、かわいい、きれい等）	76	13.50%
外見に対する配慮	（身だしなみが整っている、細かいところまで気を配っている等）	65	11.55%
ファッション	（おしゃれ、服のセンスが良い、その人に合った着こなしができている等）	63	11.19%
表情	（いつも笑顔、笑顔が素敵、表情豊か等）	59	10.48%
髪	（髪がきれい、髪がサラサラ、髪がツヤツヤ、黒髪等）	49	8.70%
周囲の反応	（誰が見てもきれい、みんなが憧れる、	42	7.46%
化粧とファッション	（その人に合った服装やメイク、TPO を考えた服装やメイク等）	25	4.44%
努力	（努力している、手を抜いていない、だらけていない、自分磨きをしている等）	22	3.91%
オーラ	（オーラがある）	21	3.73%
ヘアスタイル	（髪型がきちんとしている、髪型が整っている、ヘアの崩れがない等）	8	1.42%
美意識	（美意識が高い、美を追求している、見られているという意識等）	5	0.89%
自信	（自分に自信がある、自信のオーラがある等）	4	0.71%
話し方・言葉遣い	（話し方が丁寧、言葉遣いがきれい等）	4	0.71%
髪や肌	（髪の毛や肌がきれい等）	3	0.53%
爪	（爪がきれい、いつもネイルがきれい等）	3	0.53%
内面の美しさの表れ	（内面の美しさが表れている等）	3	0.53%
自己理解	（自分の魅力が分かっている、自分の見せ方が分かっている）	2	0.36%
知性	（頭が良く知的、知的に見える等）	2	0.36%
その他		13	2.31%
未記入		6	1.07%
有効回答件数		1504	267.14%

Table 1-2 内面が美しいとは（全体）

分類	回答例	度数	割合
人に対する配慮	(思いやりがある、気配りできる、相手のことを考えている、自己中心的でない、親切、人の気持ちを考えられる、周りに気遣いできる等)	286	50.80%
優しい	(優しい、人に優しい、心が優しい、優しさがある等)	112	19.89%
対応の一貫性	(誰に対しても平等、誰にでも同じ態度、誰にでも優しい、誰にでも親切等)	107	19.01%
自己の確立	(自分の意見がある、自分の考えを持っている、自分をしっかり持っている等)	78	13.85%
性格の良さ	(性格が良い)	72	13.50%
礼儀	(マナーが身についている、礼儀がしっかりしている、挨拶ができる等)	62	11.01%
話し方・言葉遣い	(言葉遣いがきちんとしている、きれいな言葉遣い、話し方が丁寧等)	46	8.17%
心がきれい	(心がきれい、心が美しい、清らかな心等)	38	6.75%
笑顔	(いつも笑顔、笑顔が輝いている、ニコニコしている、表情が明るい等)	30	5.33%
周囲の反応	(誰からも好かれている、みんなから慕われている、周りに影響力がある等)	29	5.15%
前向き	(ポジティブ、前向き、ポジティブシンキング等)	27	4.80%
努力	(努力している、ひたむきに努力する、いつでも頑張っている等)	24	4.26%
明朗	(明るい、明るい性格、いつも明るい等)	24	4.26%
寛大	(心が広い、おおらか、寛大等)	23	4.09%
常識	(常識がある、常識が身についている等)	23	4.09%
悪口を言わない	(人の悪口を言わない、人を批判しない等)	21	3.73%
立ち居振る舞い	(立ち居振る舞いがきれい、姿勢が良い、しぐさがきれい等)	19	3.37%
悪いことを考えない	(悪いことを考えない、汚い考えがない、闇の部分がない等)	17	3.02%
健康的	(健康的、健康管理をしっかりとっている、健康に気を遣っている等)	16	2.84%
純粋	(純粋、心がピュア、汚れていない等)	16	2.84%
しっかりとっている	(しっかりとっている、しっかりした考えを持っている等)	15	2.66%
穏やか	(穏やか、温和、性格が丸い等)	14	2.49%
上品	(上品、品がある等)	13	2.31%
女性らしさ	(女性らしい、女らしい等)	12	2.13%
目標がある	(目標を持っている、目標に向かって努力している等)	12	2.13%
一生懸命	(何事にも一生懸命、何かひとつのことに一生懸命等)	10	1.78%
自信	(自分に自信がある、自信に満ち溢れている等)	10	1.78%
素直	(素直、素直に受け止めることができる等)	10	1.78%
その他		306	54.35%
未記入		2	0.36%
有効回答件数		1428	253.64%

また、身体に関する記述の中でも細さに関するものが対象者全体の6.75%から回答されたことにも注目したい。依然、痩せていることを良しとする価値観が若年女性の間に根強いことが窺われる結果であり、当該傾向にも注意を向けるべきと考える。

全体の有効回答件数は1504件であり、対象者一人当たりにすれば約2.7件の回答があったこと

になる。外見の美しさの要素を表現する語として2語程度を確実に持っている計算になるが、顔と身体全体に関する記述に回答が集中したことを踏まえれば、3語以上の回答を強制することで美しさに対するより分析的な内容が抽出できる可能性もあると考えられる。

一方の内面については、回答内容と関連の深い対象によって分類することが難しく、外見の回答よりも細かい区分で集計することとなった。そのため、Table 1-2には10件以上の回答があった分類のみを掲載し、これらに含まれない区分は「その他」として一つにまとめた。

最も多く挙げられたのは「人に対する配慮」に関するものであり、対象者の約半数から思いやりや気配りといった周囲に対する心がけが回答された。続いて多く挙げられたのは「優しい」ことであり、先行研究においてまとめられた結果と同一傾向にあることが捉えられる³⁾。

本集計結果において特徴的であるのは、「対応の一貫性」が3番目に多く挙げられたことであり、ただ優しいのではなく、誰に対しても、裏表なく、という条件を重んじていることが捉えられた。また、「自己の確立」が4番目であったことにも注目したい。「自分の考えを持っている」等、強い自己に重きを置く価値観は個人主義の強い欧米において奨励されていると考えられるが、山田（2009）が報告された時点においても日本人対象者の10%程度に見られた³⁾。対象者が20歳前後の女子短期大学生であることも影響していると考えられるが、その後の5年分のデータをまとめた本結果においても大幅に増加することはなかった。むしろ協調を重んじる日本の伝統的価値観が色濃く反映されていると言える。

更に、有効回答件数は全体で1428件に上り、対象者一人当たり2～3種の回答を提示した計算になる。前項の外見の美しさと大きく異なる数ではなく、具体性の面においても外見と内面で顕著な差異があったとは即座に言い得ない。山田（2007）において指摘された内面の美しさの曖昧さや表現の乏しさは⁴⁾、質問の方法次第で変化すると言える。しかし、熟考することによって抽出される考えは常日頃から意識されている考えとは別に扱う必要もある。当該分析については今後の課題である。

3.2 外見重視と内面重視の構成

「美人」（質問4）、「美しい」（質問5）それぞれに外見と内面の選択度数を集計し、各語が人に対して使用される際に外見と内面のどちらが重視されるかをまとめた。次のTable 2は、各表現に対する反応をクロス集計した結果である。尚、本項の内容は、山田（2012）の3.1.1と同一データに基づくものであるが、データが不完全である等の理由により一部を対象から外したため、合計数値に若干の違いが生じた。

Table 2 「美人」と「美しい」に対する重視対象（全体）

		「美人」		
		外見	内面	計
「美しい」	外見	150 (27.3%)	56 (10.2%)	206 (37.5%)
	内面	329 (59.8%)	15 (2.7%)	344 (62.5%)
	計	479 (87.1%)	71 (12.9%)	550 (100.0%)

全体として、「美人」に対しては外見重視、「美しい」に対しては内面重視という傾向が強いことが表から読み取れる。前報にも明らかなように、最も多い回答パターンは「美人」に対して外見重視、「美しい」に対して内面重視を選択するもので、全体の6割弱を占めた²⁾。

当該結果を踏まえ、言葉の違いによる外見・内面重視の変化が生じるか否かを確認するため、マクネマー検定を行った。この結果、0.1%水準において有意な偏りが認められ ($\chi^2=192.166$, $p<.001$)、若年女性に受け取られる各語の語感の違いが明らかとなった。前述の通り、「美人」に対しては外見を重視し、「美しい」との表現には内面を重視する傾向のあることが統計的にも示されたことになる。しかしながら、「美しい」と表現する場合には外見を重視する対象者も4割弱存在し、この傾向は山田（2012）においても年度を越えて確認されている²⁾。

3.3 「美しさ」に対する外見重視群と内面重視群の比較

前項の分析を踏まえ、「美人」に対する回答として多数派であった外見重視回答者（479名）にターゲットを絞り、このうち、「美しい」との表現に対して外見を重視すると回答した対象者150名を「外見重視群」、内面を重視すると回答した329名を「内面重視群」として比較を行うこととした。尚、データが少ないことを鑑み、本分析では「美人」に対して内面重視と回答した対象者（71名）は分析対象としなかった。

3.3.1 外見の美しさにおける群間比較

外見の美しさ（質問6）において得られた回答内容を群別に整理した結果、Table 3が得られた。当該表においては、2群のいずれか、或いは両群の5%以上の対象者が回答した項目の回答件数と各群における回答割合のみ記載した（5%に満たない分類は「その他」としてまとめた）。

Table 3 外見の美しさに対する各群の回答

	「美しい」との表現における重視対象			
	外見重視群		内面重視群	
	度数	割合	度数	割合
顔	95	63.33%	185	56.23%
身体	91	60.67%	188	57.14%
全体的な印象	43	28.67%	81	24.62%
肌	30	20.00%	62	18.84%
全体	24	16.00%	38	11.55%
化粧	20	13.33%	57	17.33%
立ち居振る舞い	20	13.33%	57	17.33%
髪	18	12.00%	28	8.51%
ファッション	15	10.00%	43	13.07%
外見に対する配慮	13	8.67%	45	13.68%
周囲の反応	11	7.33%	22	6.69%
オーラ	8	5.33%	12	3.65%
表情	7	4.67%	40	12.16%
化粧とファッション	6	4.00%	17	5.17%
その他	15	10.00%	44	13.37%
未記入	1	0.67%	3	0.91%
有効回答件数	416	277.33%	919	279.33%

上位の項目においては、目立った順位の相違はなく、両群とも外見の美しさを構成する要素として顔や身体に注目していることが読み取れる。いずれの群においても半数以上がこれらの2分類に当てはまる回答を示していると言える。

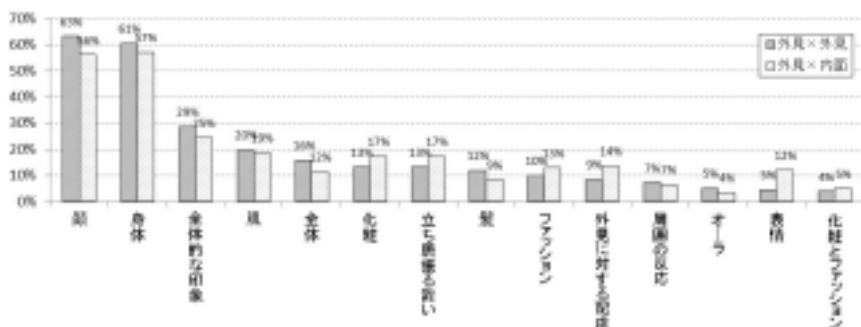


Figure 1 外見の美しさに対する各群の回答割合

Table 3に基づき、各分類の回答比率を Figure 1に記した。尚、これ以降の図においては、「美人」に対して外見を重視する一方、「美しさ」に対して外見を重視する群（外見重視群）を「外見×外見」、内面を重視する群（内面重視群）を「外見×内面」として示す。殆どの項目についてはグラフの高さの差は目立たないが、右端の「表情」において群間の違いが見られる。

統計的に有意な差異があるか否かを確認するため、各回答分類に関連する回答を挙げた人数と挙げなかった人数を群別に算出し、コクラン・アーミテージ検定を行った結果、2種の分類についてのみ有意な偏りが見られた（回答件数が少なかったために Table 3において「その他」としてまとめた分類も、本分析においてはそれぞれ独立した分類として検定を行った）。一つは「表情」であり（ $p<.05$ ）、今一つは「内面の美しさの表れ」であった（ $p<.05$ ）。前者は、「美しい」という言葉に対して内面を重視する群においてより多く挙げられ、後者は反対に外見を重視する群に偏って回答が見られたことになる。「内面の美しさの表れ」は、回答が多い方の外見重視の群においてもその数は2件のみであったため（内面重視群では0件）、考察には注意を要するが、統計的に有意な偏りが見られたこれら2分類は、いずれも内面に関わるという特徴を持つ。特に「表情」は、精神活動の特徴が視覚的特徴として具体的に表れたものであり、他者の存在も関わるものであると言える。外見の美しさの中に「表情」を含ませるか否かが、「美しさ」の言葉に対する捉え方を特徴づけるとも考えられる。

更に、これらの回答度数を対象としてコレスポンデンス分析を行った。結果として1軸が抽出され、各分類についてスコアが得られた。当該スコアに基づき、各分類と各群の布置を Figure 2に示した。これによって、各群と各分類の関係が視覚的に捉えられるようになる。「オーラ」や「全体」のような包括的な回答は特に「外見重視群（外見×外見）」と関係が深く、「外見に対する配慮」や「表情」のように他者の存在が関わる内容は「内面重視群（外見×内面）」と親和性の高いことが読み取れる。

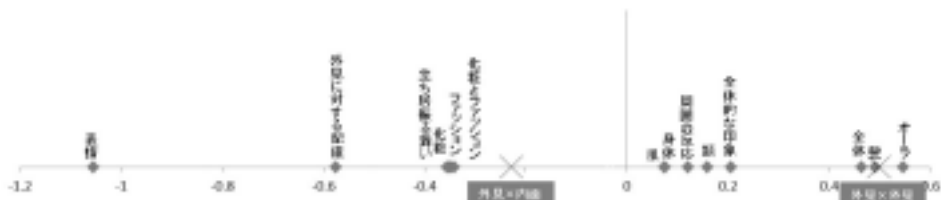


Figure 2 コレスポンデンス分析に基づく各群と外見に対する回答分類の関係

3.3.2 内面の美しさにおける群間比較

外見の美しさと同様に、内面の美しさについて群別の集計を行った。Table 4は各分類の回答件数と各群の対象者に占める割合をまとめた表である。尚、各群或いは両群において5%未満の回答率であった分類は「その他」としてまとめた。

Table 4 内面の美しさに対する各群の回答比率

	「美しい」との表現における重視対象			
	外見重視群		内面重視群	
	度数	割合	度数	割合
人に対する配慮	62	41.33%	188	57.14%
優しい	36	24.00%	60	18.24%
対応の一貫性	31	20.67%	66	20.06%
性格の良さ	27	18.00%	37	11.25%
自己の確立	16	10.67%	49	14.89%
笑顔	11	7.33%	15	4.56%
心がきれい	11	7.33%	27	8.21%
話し方・言葉遣い	9	6.00%	32	9.73%
周囲の反応	8	5.33%	4	1.22%
前向き	8	5.33%	17	5.17%
明朗	8	5.33%	13	3.95%
礼儀	8	5.33%	47	14.29%
寛大	4	2.67%	17	5.17%
その他	117	78.00%	332	100.91%
未記入	1	0.67%	1	0.30%
有効回答件数	356	237.33%	897	272.64%

外見と同様に、内面に関する回答についても群間の共通性が高いことが読み取れるが、割合においては群間の差が目立つ分類も見られる。これを踏まえ、Figure 3にはTable 4に記した各分類の回答比率を棒グラフとして示した。「人に対する配慮」や「礼儀」などについては、前述の差がグラフの高さの違いとして確認できる。前項と同様の方法でコクラン・アーミテージ検定を行った結果、「人に対する配慮」($p<.01$)、「性格の良さ」($p<.05$)、「礼儀」($p<.01$)、「女性らしさ」($p<.05$)、「愛想」($p<.01$)、「目標がある」($p<.05$)において有意な偏りが認められた。「人に対する配慮」、「礼儀」、「目標がある」は「内面重視群 (外見×内面)」に多く、「性格の良さ」、「女性らしさ」、「愛想」は「外見重視群 (外見×外見)」に多かったことになる。

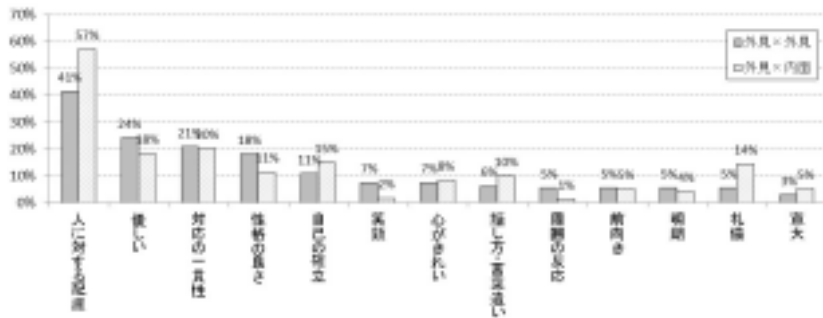


Figure 3 内面の美しさに対する各群の回答割合

更に、外見の美しさと同様に、回答度数を対象としてコレスポンデンス分析を行った。抽出された1軸に対するスコアに基づき、各分類と各群の布置を Figure 4に示した。「人に対する配慮」や「話し方・言葉遣い」、「礼儀」等、マナーやホスピタリティに関わる内容は「内面重視群（外見×内面）」と関係が深く、「性格の良さ」のような包括的な回答は「外見重視群（外見×外見）」の特徴として捉えられる。また、外見の美しさにおいて「内面重視群（外見×内面）」と関係の強かった「表情」が「外見重視群（外見×外見）」の側にあることも注目したい点である。外見要素のうちに内面を見ようとするのが「内面重視群」であり、「表情」を内面的要素に含める傾向にあるのが「外見重視群」であるとも言えそうである。

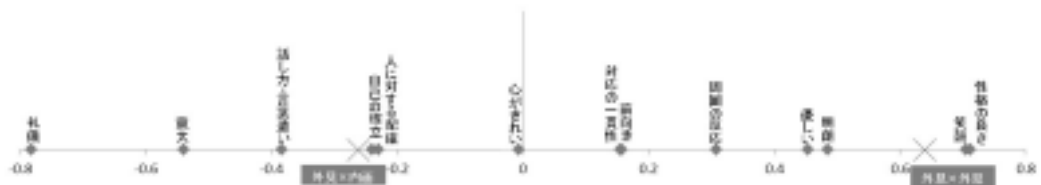


Figure 4 コレスポンデンス分析に基づく各群と内面に対する回答分類の関係

4. 総合考察

本研究においては、外見の美しさと内面の美しさが、日本人の若年女性たちの間でどのように捉えられているのかを明らかにした。外見の美しさとしては、顔や身体などの生まれながらに持つ要素がまず外見の美しさとして挙げられる一方、「全体的な印象」や「化粧」等、努力次第で変化させることのできる要素も少なからず影響を与えていることが捉えられた。また、「外見に対する配慮」や「立ち居振る舞い」等は、他者を意識したマナーにも通ずる。第一に生まれ持った顔かたちの良さが意識されていることが捉えられるが、それだけでは不十分であり、内面に關わる要素が伴わなければ真の美しさとは認められないという姿勢も窺われた。社会心理学の分野においては、美人に対して好ましいパーソナリティが推測されるという「美人ステレオタイプ仮説」があるが⁵⁾、これについては、外見的な美しさによって喚起された好意が介在することで好ましいパーソナリティが推測されるとの見解もある⁶⁾。すなわち、外見的特徴と性格特性とが直接的に結び付けられているのではなく、外見によって好意が生起し、それによって好ましい性格が予想されるということである。本調査の結果は、表面的な特徴に惑わされず、パーソナリティを外見的特徴から読み取ろうとする冷静な目線も感じ取ることができる。

また、内面の美しさとしては、他者に対する配慮や優しさが上位を占めた。2011年の東日本大震災においては、被災地や混乱の下にある各地での日本人の様子が海外メディアに報じられ、賞賛された。略奪や暴動が起こるところか、被災者までもが譲り合う姿勢に世界は驚嘆した。未曾有の事態によって、秩序を重んじ、譲り合いの精神、他人への迷惑を避けようとする日本人の精神性が浮き彫りとなったのである。比較文化研究においても日本人は「察しの文化」を持つとされ、古くは R. ベネディクトの著した『菊と刀』においても当該指摘がなされてきた⁷⁾。本調査の結果は、伝統的な日本の価値観が若年女性においても顕著であることを強く示すものであり、その影響は西欧的な個人主義に繋がる意識（例えば、「自己の確立」等）を凌駕していると言える。

更に、「美しい」という語に対する反応特徴の分析からは、内面に対する注目が他者の存在に対する意識に直結していることを窺い知ることができる。内面重視者における美しさとは、自己の積極的表現によって達成されるものではなく、外見においても内面においても、他者に不快感を与えないこと、すなわち、マイナス要因がないことに対して高い評価が付与されるものと考えられる。

日本人若年者の自尊心や肯定感が低いことについては、山田（2011）においても指摘されているが⁸⁾、ソシオメーター理論に基づけば⁹⁾、そうした自尊感情の乏しさと他者の存在を重んじる姿勢との間には連関があるとも考えられる。ソシオメーター (sociometer) は、「他者から拒絶

されないように行動を制御できる心的装置」として定義され⁹⁾、自尊感情が低下するとソシオメーターがその状況に応じた対処行動を発動するとされる^{10,11)}。つまり、自尊心が低い場合には、他者から拒絶されない行動、社会的に好ましいとされる行動を一層強化する可能性があると言える。

伝統的な日本社会のみならず、現代日本を生きる若年女性においても顕著に見られた他者ベースの価値観は、彼女たちの持つ自尊感情の低さと表裏一体のものとして捉える必要もありそうである。自尊感情は自己肯定感とほぼ同義で扱われるが、2009年に文部科学省によって示された「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」では、小学校高学年の段階において重視すべき課題として「自己肯定感の育成」が挙げられている¹²⁾。続く課題として併せて掲げられているのが、「自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養」である。

両者は相容れないものではないが、本調査結果からは、相互にトレードオフの関係にあることも推測される。こうした可能性も視野に、より広範かつ継続的に価値観の変化を辿って行くことが、美しさに対する一層の理解に繋がると考える。

5. 今後の課題

本調査においては、外見・内面共に詳細な回答が得られたが、何れの内容も普段から意識されているとは言い切れない。授業冒頭で行われたため、このように答えるべき、との強迫感が持たれた可能性もある。質問紙に対する工夫やインタビューを組み合わせる等の方法を用い、普段の意識がどのようなものであるかを捉えることは今後の課題である。

また、本結果から考察された自尊感情と内面重視傾向との連関についても別に調べる必要がある。自尊感情や自己肯定感について捉えた上で、美しさに対する価値観を調べ、両者の連関を探ることも有用であると考ええる。

6. 結論

- ・外見の美しさとしては、具体的で分析的な回答よりも顔や身体が美しいという包括的な記述が多くを占めた。
- ・内面の美しさとしては、思いやり等、人に対する配慮に関する記述が最も多く、「誰に対して

も」といった一貫性を条件とする傾向も捉えられた。

- ・「美人」との表現に対し外見を重視する群の中でも「美しい」との表現に対し内面を重視する群は、外見重視の群よりも表情等の内面的特性に関わる内容を外見の美しさとして想起する傾向にある。また、礼儀や人に対する配慮等、マナーや思いやりに関わる内容を内面の美しさとして想起する傾向にある。

引用文献

- 1) 新村出 編 (2010) 広辞苑第6版 (DVD-ROM 版), 岩波書店
- 2) 山田雅子 (2013) 人の美しさに関わる言葉の語感の分析—若年女性における「美人」と「美しい」の使い分け. 埼玉女子短期大学紀要, 28, pp. 113-123.
- 3) 山田雅子 (2009) 現代女性の美人観における外見と内面の分析—女子短大生が抱く美しさの構造—. 埼玉女子短期大学紀要, 20, pp. 79-91.
- 4) 山田雅子 (2007) 女子短大生に見る現代女性の美人観. 埼玉女子短期大学紀要, 18, pp. 213-226.
- 5) Dion, K., Berscheid, E., & Walster, E. (1972) What is beautiful is good. *Journal of Personality and Social Psychology*, 24, pp. 207-213.
- 6) 垣内理希 (1996) 美人ステレオタイプは存在するか. *社会心理学研究*, 12, 54-63.
- 7) Benedict, R. (1946) *The chrysanthemum and the sword: Patterns of Japanese culture*. Boston: Houghton Mifflin. (長谷川松治訳 2005 菊と刀—日本文化の型—. 講談社)
- 8) 山田雅子 (2011) コミュニケーション教育の課題—日本人女子学生の自己評価を踏まえて. 埼玉女子短期大学紀要, 26, pp. 135-152.
- 9) Leary, M. R., Tambor, E. S., Terdal, S. K., & Downs, D. L. (1995) Self-esteem as an interpersonal monitor. The sociometer hypothesis. *Journal of Personality and Social Psychology*, 68, pp. 518-530.
- 10) 脇本竜太郎 (2009) ソシオメーター理論 (高木修 監修・安藤清志 編, 自己と対人関係の社会心理学, 北大路書房, pp. 39-42.)
- 11) Leary, M. R. (2004) The Sociometer, self-esteem, and the regulation of interpersonal behavior. (R. F. Baumeister & K. D. Vohs Eds., *Handbook of self-regulation: Research, theory, and applications*. Guilford Press)
- 12) 文部科学省 (2009) 調査研究協力者会議 (初等中等教育) 子どもの徳育に関する懇談会3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1283165.htm